

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:2022年 2月 10日

事業所名 平谷こども発達クリニック 発達支援室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動に合わせて部屋を選択している	小集団の中に高学年の児童がいるためもう少し広いスペースがあったほうが良いと感じることもあるが、活動できないわけではない
	2 職員の配置数は適切である	○			基準以上のスタッフを配置するようにしている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	扉の段差にクッションを設置したり、階段に、大人用と子ども用の2種類の手すりを付けてある	現状バリアフリーを必要とする対象者はいないが、1回のみにはバリアフリーに対応していないことは気がかりである。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			活動に携わるスタッフ間で話し合いを行っている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケート実施後には内容に目を通し改善を心がけている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所内かつホームページで掲載している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			評価結果を確認し、改善を心がけている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			毎週金曜日に研修会を実施している。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			アセスメント表に基づき話し合いを進め、ニーズや課題として挙げた内容を取り入れて作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			必要に応じてSDQを使用している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動に関わるスタッフ間で話し合いプログラムを決定している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		同課題の他に類似課題やレベルアップした課題を用意するだけでなく新規課題も取り入れている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		季節に合ったレクリエーションを取り入れるなどの工夫は行っている。またニーズに合わせた多様な支援を件としたい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			本人の様子に留意し、個別で狙うべきポイントと集団で取り組むべき内容を検討している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		2021年度から毎回事前に話し合いながら動きについて確認し、連絡ミスがないように努めている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎回振り返りを行い、情報共有している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			記録が遅くなってしまうことがあるが、振り返り後は記録を行い、よりよい支援を検討している。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			半年に1回モニタリングを行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている		○		ガイドラインの確認が不十分であることがあるため、徹底していきたい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			原案作成時に関わるスタッフ同士で担当者会議を開催している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○	保護者を通じて学校での様子を聞いている。	保護者を通じて情報共有することが多いため、必要に応じて学校と連携していきたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			受け入れていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				保護者に情報伝達していただいているのが現状である。今後は適時対象児童の生活を確認していく必要がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			現時点で移行したケースがない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			機会があれば助言や研修を受けたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			交流の機械は設けていないが機会があれば取り組みたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○			都合が合わずあまり参加できていない。事業所から1名以上は参加できるようにしていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				活動時または活動後に話す機会を設けている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			個別に相談を受ければ対応するが、コロナ禍のため相談会は実施していない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				契約書や重要事項説明書を確認しながら説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				フィードバック時や相談会の中で出た悩みについて一緒に検討し支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			2年前までは、保護者情報交換会を設定していたが、コロナ禍の為に自粛し、個別の相談を定期以外に応じている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○			現状聞いていないが、もしあれば迅速に対応したい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している					毎回保護者も参加しているため特別には行っていない。
	35	個人情報に十分注意している	○				個人情報が漏れないよう注意を払っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				本人や保護者に分かりやすいような伝え方を心がけている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			外部に向けた行事を開催していないが機会があれば行いたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアルは策定しているが、訓練の実施は行っていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的に避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			研修に参加したスタッフが伝達研修と言う形でスタッフ間で共有している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		拘束の必要がある場合は保護者に了解を得て計画書に記載するようになっているが、現在までそのようなケースはない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		おやつ提供時や調理をする際は事前にアレルギーについて確認するが、現状実施の予定はない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ヒヤリハット事例集は作成していないため、今後作成しスタッフ間で共有していきたい。